

授業改善のテーマ

基礎基本を身につけ、伝え合う力を育成する学習指導をめざして

授業改善の重点

「根拠を探れる課題」が  
設定された授業

児童の交流の場が  
設定された授業

教師の発する言葉が  
精選された授業

取り組み内容

○根拠を探れる「課題」づくりをする。  
・（AかBか）（○か×か）など自分の  
立場が決められるものとする。

○伝え合うための聴き方・話し方  
の約束を定着させる。  
1. 個人で考える時間を確保する。  
2. つなぎ言葉の定着を図る。  
3. 交流の目的をはっきりさせる。  
4. 交流を促す活動を取り入れる。

○時間の区別をつける。  
・教師の説明の時間（講義型）  
・児童の交流の時間（対話型）  
○交流を活性化させる発問を  
する。

取り組み指標

〔毎時間ではなく、教科や単元の中  
で取り組める時間を探る。〕  
1. 根拠を探れる課題が設定できる  
時間をつくる。  
【根拠となるもの】  
・教科書に載っていること  
・既習事項  
・新聞  
・図書資料  
・聞き取りしたこと  
・ネット情報など

〔学年に応じた対応とする〕  
1. 個人で考える時間を確保する。  
（書く・唱える）  
2. 「聞き名人、お話し名人」の掲  
示と意識付けを図る。  
・発表者は、「問う言葉」をつける。  
「どうですか」など  
・聞き手は、発表者に反応を示す。  
「～のところが同じです」など  
3. 目的が明確なペア・グループ活  
動とする。  
・何を伝え合うのか  
・どうやって伝え合うのか  
4. 交流を促す活動を取り入れる。  
・発表者・聴き手の方を向く・移動  
する・指差す・時間制限する・拍手  
する・うなずくなど

〔毎時間、意識して取り組む〕  
1. 教師の復唱を減らす  
2. 切り返しの発問を用意す  
る。  
・『みんなどう思う』  
・「同じです」に対し『きみの言葉  
でもう一度言ってごらん』。  
・『良いと思う理由は何ですか』  
など

検証指標

○2ヶ月ごとの児童アンケート  
で、「週2回以上、教科書や既習事  
項から根拠を見つけられた」児童  
を8割以上とする。

○2ヶ月ごとの児童アンケー  
トで「聞き手、話し手に体を向  
けられた」が守れた児童を8割  
以上とする。

○2ヶ月ごとの児童アンケー  
トで「発表は、簡単な文で、聞  
こえる声で」が守れた児童を8  
割以上とする。